

令和３年度保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・義務教育学校教員等研修会（第３回） アンケートのまとめ（小学校教諭）

- 1 目 的 接続カリキュラムについての講義や実践発表、演習を通して、発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育及び学校教育の充実を図る。
- 2 主 催 宗像市教育委員会（子ども育成課）
- 3 期 日 令和３年１２月８日（水）
- 4 会 場 宗像市役所（１０３会議室）
- 5 対象者 宗像市内保育所・幼稚園・認定こども園主任または、年長クラス担任、小学校・義務教育学校１年担任(１名)

- 問１ 本日の実践発表について、印象に残ったことや今後に活かしたいことなどをご記入ください。
- 問２ 本日の協議について、印象に残ったことや今後に活かしたいことなどをご記入ください。
- 問３ 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・義務教育学校教員等研修会で取り上げてほしい内容についてお聞かせください。

N0	問 1	問 2	問 3
1	リズム遊びが大切だと思った。	スタートカリキュラムを詳しく作っていいと思った。	
2	幼稚園、保育園での子どもの実態を保幼小の先生で交流し、さらに出来上がったスタートカリキュラムを保幼の先生に見てもらったのがよいと思った。 子どもの主体性を大切にされている教師の関わりも勉強になった。ただ、主体性と基礎学力とのバランスも大切である。さまざまな活動（例えば生活科）で、主体性を十分発揮しているお子さんが国語や算数の基礎基本で躓くということが本校ではしばしばある。やる気はあるのに、ひらがなが覚えられず教科書が読めない。 また、スタートカリキュラム期には生活リズムに適応していたお子さんが、スタートカリキュラム後に行き渋り傾向が見られたこともあった。 主体性と基礎学力。スタートカリキュラムとその移行。どちらもバランスが難しいなと感じている。	各幼稚園での取り組みをずっと知りたかったのでとても参考になった。自分のイメージと異なることも発見。例えば、手遊び歌はどの年齢でもおこなっているわけではないこと（年長ではあまりやらない）。小学校も発達段階を考慮するように園でもそれぞれの発達段階に沿った活動をしているのだと知った。	付属幼稚園を見学させていただいたように、さまざまな園の日常をたくさん参観したい。
3	登校から1時間目を連続した時間とし、子どもにとって安心して登校できる環境をつくること	教室内の環境を整えること。広い空間をつくる、段階的な指導 など	
4	なんとなく一年生の最初のすすめかたとして、やってきていたことをカリキュラムとして整理してありよかった。	リズム遊びなど、一年生体育のからだほぐし運動にいいと思いました。	おたがいの教育情報や、こどもの情報交流
5	スタートカリキュラムの実施において、ねらいや手立ても明記され、合科的・関連的な指導がはっきりと分かりやすいものだったので、参考にしたいと思った。	幼稚園、保育園で取り組んでいることや、園児の様子を聞くことができ、とてもいい機会になった。今まで、幼児期から児童期への接続に目がいていたが、幼児期は、それ以前(乳幼児期)の育ちも大きく影響しているのだということを、園の先生方の話から感じ、印象に残った。そういう背景も含めて、子ども達を受け入れていかなければと思った。	
6	幼稚園、保育園から小学校、子どもは、大人が思っている以上に緊張している。小学校のスタートは、慣れ親しんだ幼稚園、保育園での過ごし方とあまり違いがないようにしたほうがよいことが改めて分かった。	幼稚園、保育園は、季節感を大切に、歌や絵本を選んでいることや、一人ひとりの子どもの個性を大切にしながら日々、教育されていることが分かりました。	幼稚園、保育園の１日の過ごし方や、年齢の違いによる学習内容の違いが知りたい。
7	スタートカリキュラムの中の安心をつくる時間の設定が新しい取り組みでとても参考になった。 入学前の連絡会では、子どもの実態把握だけでなく、園生活（遊びや運動、歌等）の情報も聞いて、取り入れたい。	実践発表を受けて、幼児期の時間の流れや遊びについて情報収集することができた。 積極的にわらべうた等を取り入れ、仲良くなるきっかけづくりをしたい。	
8	保育園での実践で、なるべく口を出さず見守り、意見の違いを学んだり、考えて行動することを学ばせたいとお聞きして、小学校でも時間が限られてはいますが、できる限り見守る姿勢を大切にしようと思った。	保育園での遊びと、その遊びをさせるにあたっての思いを伺うことができ、勉強になりました。取り入れていきたいと思った。	
9	幼小の連携が取れていて、学びが小→年長→年小につながっていたこと。	スタートカリキュラムを作成するにあたり、近隣の保幼と話ができただことは、とても充実していた。卒園間際の園児に対する取り組みについて話を聞いたことは、新１年生の対応に非常に参考になった。小学校側が構えずぎていて、できることもさせないでいたように思った。小学校の考え方も少し考え直さないといけないと思う。	スタートカリキュラムだけでなく、卒園児カリキュラムも一緒に考える場が与えられるとありがたい。
10	朝の活動と一時間目をつなぐことで少しでも安心した時間を作ることが勉強になった。 保育園幼稚園での過ごし方や現状を知ることが小１プログラムの防止につながることを学んだ。	年長さんで机と椅子を用意して学校の様子に近づけようとしておられることを知って、保育園や幼稚園でも小学校へつなぐための支援をしてあることが分かりました。 小学校での始めの様子も伝えられてよかったです。	コロナ禍における保育園幼稚園と小学校との交流の仕方について
11	幼稚園から慣れる過程で時間に縛られない時間割を設定して、子供達が楽しく少しずつ慣れていくことが大事であるとわかった。	協議の中で子どもたちが好きな手遊びや遊び、絵本などをたくさん教えていただいた。本を少しずつ章ごとに分けて読むということをやってみたい。	
12	スタートカリキュラムについて改めて考えさせられた。これまでも、設定はしていたが、今回の実践発表をもとに、見直せたらと思った。	幼稚園と保育園、小学校観で手遊びや歌などの交流ができたことは、とてもよかった。	就学前子どもたちの園での生活の様子を具体的に知りたい。
13	カリキュラムの作り方について生活科をうまく活用する。 ６年生の園訪問があるが、１年生の訪問も検討できると良い。	遊びの中から学ぶことからの移行の仕方をカリキュラム編成に取り入れて活かしていきたい。 ９時から、１０時から活動に入ると聞き、園によっても流れが違うので焦らずスタートさせたい。	

令和３年度保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・義務教育学校教員等研修会（第３回） アンケートのまとめ（保育士・幼稚園教諭）

- 問１ 本日の実践発表について、印象に残ったことや今後に活かしたいことなどをご記入ください。
- 問２ 本日の協議について、印象に残ったことや今後に活かしたいことなどをご記入ください。
- 問３ 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・義務教育学校教員等研修会で取り上げてほしい内容についてお聞かせください。
- 問４ その他（自由記入） ※保育士・幼稚園教諭のみご記入ください。

NO	問 1	問 2	問 3	問 4
1	スタートカリキュラムについての具体的事例を聞く事ができ、園と小学校での連携が進んできていると感じた。	小学校でのコロナ禍の現状を確認でき、現場で大切にしたいことを再度確認出来た。	今回のようなテーマ性をもった話し合いの場が今後も欲しい。	職員間での保育に対する共通理解を図りたい。園のおもちゃなどをもっと充実したい。
2	保育園と小学校との連携がよくとれていていると感じた。子ども一人一人の考えに共感してみんなそれぞれの意見を出しあって楽しそうだった。	小学校へのスタートカリキュラムを大切にされていると感じた。入学してすぐは少し戸惑いもあったようでしたが様子が聞けて良かった。また、学校の日が再開されたようなので見学に行きたい。	気になる子どもへの保護者への対応の仕方を知りたい。	主体性のある子どもたちになってほしいがどこまで声かけしていいのか対応が難しい。
3	スタートカリキュラム	グループ討議 接続の為の情報交換	宗像市立小学校の各校のスタートカリキュラムについて	小学校と保育園の子どもの交流 小学校のカリキュラムとして位置づけられるための方法を教えて下さい。
4	小学校のスタートカリキュラムには保育士の方向性、位置付き言葉かけなど、その姿もカリキュラムのひとつですと言われたのが、まさにおっしゃる通りだととても心に響いた。私達の職務、責務としてのあり方について胸に刻み込まれた次第です。	とても良い機会でした。小学校、幼稚園、保育園でのそれぞれの日常の保育の展開も知る事もできた。また小学校に入学するまでの幼児期からの大切にしている過程を伝える事もでき、繋げていく意味の存在も共通理解ができた。子ども達が本当に生き生きと夢を持って歩いていけるようにこうやって連携をとりながらの協議など必要であり、大切な時間を過ごす事ができた。	支援の必要な子ども達の対処の仕方や、言葉かけ、具体例をあげながらの実践のあり方についてなど。いろいろな研修は受けておりますが、本当に困った時どうすれば？など現実の問題を抱えての実践例など。	支援関係の専門家などの巡回などがあれば良いのかな？と考えます。
5	学校で、スタートカリキュラムを実際に作成してあることを知った。園などでの遊びや生活を通した学びと育ちを基盤として、スムーズな学校生活が、おくれるように考えてもらっていることがわかり安心した。入学していくこともたちが、どのこも安心して自分の居場所があり、学校生活に慣れたいって欲しいと願っている、スタートカリキュラムは、どのこ小学校でも作成されているのでしょうか。	小学校に아가り行き渋りの子供が、時々いて不安を抱える子供の気持ちや、保護者の方の心配をきくことがあり、気になっていた。保幼小の連絡会で、入学後の様子を聞く機会を作ってもらい、その子の様子や、配慮してもらっていることもわかり、安心した面もあり、また入学前に伝えきれなかった事を学校の先生と話せる機会となり、良かった。これから学校との連携を積極的に持てるとよい。	共有できる機会を作っていくのが、いいのではないのでしょうか、	新人の先生の育成の仕方について研修があればいい。 研修ありがとうございました。
6	子どもたちの自発的な活動や、楽しそうな笑顔がとても印象的。見守りの大切さを改めて感じた。	小学校の先生の大変さがとてもよくわかった。子どもたちの困り感が少しでも軽減するよう、小学校とは、色々な場面で連絡、連携をとる必要があると感じた。	保護者対応、支援。とくに最近は、保護者の若年化や、要保護児童、発達障がいなど、様々なケースがあり、大変になっているため。	
7	小学校でのスタートカリキュラムを初めて知って、連携の大切さを実感。	小学校での取り組みを具体的に聞いて、園でも取り組めることがあるのではないかとと思った。	特性のある子の引き継ぎなど	
8	実践発表での小学校と保育園の連携の良さを感じることができた。子ども達も園の先生と小学校を訪問する事によって、より一層の安心感を得られるのではないかと。今はコロナ禍で厳しいと思うが、進学する学校を園の担任の先生と行き、交流会に参加できる取り組みが子ども達にとっての「安心」に繋がるのかな。と思った。小学校から帰ってからの遊びの展開では保育士が見守り、子ども達同士であそびを進めて楽しむ姿はこれからの保育の在り方であり、わかりやすかった。	実際、小学校の先生や他の園の先生方と話す機会に参加させていただき、「つながる保育」の大切さを改めて感じた。0歳からの体験、経験の積み重ねが幼児、児童へとつながっていくことを保育士として再認識し、これからの保育に努めていきたいと思った。幼児期の遊びからの学びや探究心をたくさん味わい自ら気づき、考え、実行できる子どもの主体性を大切にしたい保育を目指していきたい。		
9	保育園と小学校とのつながりの大切さを改めて感じた。	小学校の先生と話をする事ができたので、1年生の4月当初どんなことをするのか、必要なことが知れてよかった。	保護者対応、気になる子について	保護者対応、気になる子への対応
10	奥村先生の手遊びやおしくらまんじゅうは子どもたちを引き付けるものが感じられてとても楽しかった。小学校にあがるにつれて、幼稚園・保育園での生活内容がいかに大事かという事、幼児期の遊びや育ちを大切にしながら新しい小学校生活を創り出していく事を改めて知ることができた。	幼稚園・小学校の先生方と協議する中で、子どもたちがどんな遊びをしていて、どんな遊びが好きなのかを知ることができた。リズム遊びの種類の中で、リズムジャンプやさくらんぼリズムが年齢問わず楽しめると聞き、今後の保育に取り入れたいと思った。	発達障がいの子どもが小学校にあがり、どう集団生活に関わっているのか。	
11	スタートカリキュラムの意味や大切さを学ぶことができた。奥村先生が教えてくださったわらべうたを子どもたちと楽しみたい。	保育園を卒園した子どもたちがゆったりとした時間の中で、少しずつ小学校での学習や生活に慣れるための工夫（幼児期に慣れ親しんだ遊びや歌・絵本を授業に取り入れている）をされていることを初めて知ることができた。	配慮の必要な子どもについて	
12	すぐに授業の時間を作るのではなく、保育園でしていた遊びの時間を作って安心して過ごせるようにしていたのが印象的だ。	グループで話し合ってそれぞれの情報を交換することができてよかった。	小学校の様子（園でこれをしていたら小学校になった時に楽など）があれば、その情報交換もしたい。	
13	保育園から、小学校へ教育課程ごと完全に繋ぐことができる環境を羨ましく思った。同じことはできないですが、本園でできる幼児教育をきちんと進めていくことで、小学校から先へ繋げられるように子供たちを育てたい。	それぞれの立場から、自分のことを話せ、分かり合えたと思えたことが成果だった。今後も定期的に行なっていただし、宗像スタンダードのスタートカリキュラムが作れたらよい。	どんな形でまず教員と保育者が交流して、お互いのことを知りあえる機会をたくさんもちたい。	
14	大島では小学校のお兄ちゃんお姉ちゃんと関わる時間があり子供達のイキイキとした写真を見せていただき参考にした。また研修でした童歌も楽しかった！	小学校の先生や他の保育所の方とお話ができて自分にとってすごく良い刺激になった！！小学校は楽しいところだよとたくさん子どもたちに魅力を伝え就学できるようにしていきたい。	発達が気になる子への対応	コロナで難しいですが、小学校での行きしぶりが結構みられるということだったので小学校の子供達と幼稚園の子供達とで関われるような時間を取り入れて行ければよりスムーズに就学できるのではないかなと考えている。
15	保育園と小学校の連携がとてもスムーズに行われているのが印象に残った。小学校への興味関心がより深まるような交流をされていて、とても勉強になった。	小さいグループになっての協議だったので、学校の先生がどういうことに困っているかなど、詳しく聞くことが出来て良かった。学校の先生と交流があることで、子どもや保護者も安心感が持てるのではないかと感じた。	無償化になり年少より満3歳児の入園が増えてきたので、就学前の子ども達についての研修と同様、小さい年齢についての研修もあると保育の参考になると思う。	保護者、職員等、人間関係を築くのは大変なことなので、そういった面での研修があると勉強になるかと思う。
16	実際に保育所を参観されていることがとても画期的だった。	入学後の一週間は大変なご苦労があるのだと知り、今後も引き続き基本的生活習慣の徹底を行いたい。	気になる子どもたちへの援助方法	幼稚園での姿を実際に見て頂き、年長の子どもたちがどの程度理解力と行動力、言語力で過ごしているのか、また卒園までに補足が必要なことなどを協議出来ると理想である。
17	保育所での実践報告での、主体性を大切にしたい配慮がとても印象に残っている。保育者が口を出さずに、子どもたちの話し合い、発想を大切にしていることは、理想ですがなかなかできていないので今後に活かしていきたい。	小学校の先生方が、スタートカリキュラムをとても大切にされていることを知った。実際に現場を見ることはとても大切だと改めて感じた。グループディスカッションで、他園の先生方が小学校に向けてされている当番活動や手遊び歌など、実践していきたい。	今回のような各学校でのスムーズな入学への取り組み、保育園、幼稚園での小学校に向けて取り組んでいる実践など	主体性をもっと大切にできる保育をしていきたい。子どもの力をのびのびと伸ばせるような、言葉かけや手遊び等のひきだしを増やしたい。
18	出来栄えよりその子らしさがどこにあるかを子どもに伝えることが大切なことに改めて気付いた。	他の園の先生とお話して色々な集団遊びやリズム遊びを知ることができた。		
19	大島学園のスタートカリキュラムの時間割が、園生活の1日の流れを進めるにあたり参考になった。	小学校の授業にタブレットが導入されており、園で経験しておくべき内容が、今後ICTを活用した活動が増えていく予測、発達段階に応じた指導カリキュラムを見直すべきと考える。	1年生の4、5月において、子どもが困っていることは何か。（入学前1年間～半年で仕上げておくべきことを具体的に教えてください）	指導要録・連携カードの簡素化。（どちらか片方のみの提出で済む内容に検討）園からのクラス分けは無し。ただし必要事項は申し送りをする。（同じクラスにしない、する方がよい等は伝えるが他は住所等の分け方でよいため）
20	保育園・小学校への連携で、様々な取り組み、交流などの工夫が素晴らしい。その全てが「自ら考え生きていく力を身に付ける」ことであり、「子どもたちを真ん中に置いて」進められていること、保幼小を問わず全てに通じることであり、再確認できた。	今までは、幼稚園（保育園）側が小学校に会わせていくことが大切だと思っていたが、小学校の先生が年長の子どもたちことを知りスタートカリキュラムを考えてくださっているとのことのお話を嬉しく思った。子どもたちが急な環境の変化に少しでも対応できるような配慮が有難いです。		3学期の短い期間でどれだけ次へ引継ぎが行えるか、コロナのこともあり、次年度のことを予想できないこともあって頭を悩ませている。
21	友だちとの共同体験の中で、子どもたちが考え合うのを待ち、子どもの主体性を大切に口出しを我慢しているとのこと。つい声をかけたり、手を出してしまいがちになるので、子どもが困っている時はチャンスだと思い、自ら考える時間を与えながら必要な援助が行えるようにしていきたい。	就学前、年長の1年間だけでは接続につながりにくく、0、1歳の時から関係しているのではないかと園が就学の見通しをも持って保育することが大切である。色々な情報も聞くことができてよかった。		
22	見守る保育のあり方や、子どもたちの主体性を伸ばすための保育活動の行い方	絵本などのお話の選び方	就学までに身につけてほしいこと、望むことのレベルの共通理解を図れる場がほしい。	小学校で、困っている子に対して授業中などどの程度手助けをしてあげられるのか知りたい。
23	子どもに対して、どこまでを「見守り」「放任」とするかが難しいと感じる。日々、その部分を意識しながら保育していかなければいけないと、改めて感じた。	小学校の先生とのお話がなかなか出来ないの、小学校へあがると子どもたちの様子がわからなくなり、心配なこともある。このような機会をたくさん頂けると、学校での取り組みの様子もわかるので嬉しい。		